

現像もレタッチも、すべてはモニタの正しい色から始まります。

ロックバンド出身のカメラマン、ウオズミが現像、レタッチの成否を左右するポイントとしてモニタをあげ、ギターにたとえて熱く語った。

キャリブレーションが重要だ

ウオズミ流のレタッチのポイントを公開してもらいましたが、レタッチをするときの一番の注意点は何かですか。

魚住 まず、現像やレタッチはパソコンのモニタ画面を見ながら行うわけですから、モニタそのもののクオリティが大切ですね。どんなに高級なデジタル一眼レフで撮っても、その画像を正確に再現できないモニタでは意味がありません。僕はロックバンドをやっていましたが、モニタがギターだとすれば、まずいいギターを選びたい。

ギターとききましたか。(笑)

魚住 音が正確で、いい音のするギター。でも、いいギターを使うだけでもダメなんです。ギターをきちんとチューニングしないとね。

それって、キャリブレーションのこと？

魚住 そう。どんなにいいギターでどんなに

上手い演奏ができて、もともとの調弦、チューニングが狂っていたら、名曲の演奏もポロポロでしょ。ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ドが狂っていたらダメ。

モニタ上でどんなにいい現像やレタッチをしても、もともとのモニタの色が正確でなければ、名作は生まれえないわけですね。**魚住** そうです。一眼レフカメラのモニタも大きくなって見やすくなってきましたが、いくら大きくなって色もまだまだ正確ではないので、なんといっても頼りはパソコンのモニタなんです。カメラとカメラの液晶は一体型なのでモニタだけ選ぶわけにはいきませんが、パソコンの方はどんなモニタでも組み合わせができるので、絶対にモニタはしっかりしたものを選びたいですね。

撮影時、カメラの色空間の設定はどうしてるんですか？

魚住 色域の広いAdobe RGBです。

パソコンのモニタは一般的に、sRGB相当ですよ。

魚住 ええ、でも最近は、まだ少し高価だと感じる人もいますが、手の届く価格でAdobe RGB相当の色域が表示できるモニタが出てきましたよ。さっそく、僕は使ってます。EIZOのColorEdge CG241Wです。やはり違いますか？

魚住 カメラマンにとって、自分の撮った写真の中に見えない色があるというのは大きな不満だったわけですよ。それが、ほぼ全部見えるようになるわけですから、すごく納得できますよね。色を追い込むときの精度が違います。さっきのギターのたとえで言えば、いままでギターから出ている音なのに聞こえない音があって、それが聞こえるようになったわけですからね。

チューニング、つまりキャリブレーションは当然していますよね。

オリジナル画像

オリジナル画像
RAWで撮影したままの手を加えていない画像。なお撮影時の設定パラメータはまったくのノーマル。

現像済み画像
前のページで紹介しているように現像処理をした画像。オリジナル画像に比べると、肌色、背景の緑とも、不自然でない程度に鮮やかさが増している。

レタッチ済み画像
顔にかかっていた髪の毛が消されたりしているほか、肌色は暖かみを増し、緑は鮮やかさを増している。が、それは控えめにコントロールされている。オリジナル現像 レタッチの微妙な差を再現できるモニタの重要性がわかるだろう。



現像済み画像



レタッチ済み画像

魚住 もちろんです。CG241Wは専用のキャリブレーションソフトウェアが付いていて、簡単な設定をすれば、あとは自動でキャリブレーションできます。ギターのチューニングで言えば、音叉の音を聞いてやるのが従来のキャリブレーション、CG241Wのキャリブレーションは電子チューナーでのキャリブレーション、そんなイメージですね。しかも、CG241Wはハードウェアキャリブレーションですから。

ハードウェアキャリブレーションというのは？

魚住 これまでのモニタのキャリブレーションは、センサー(測色器)を使っても、ソフトウェアでパソコンのビデオ出力を調整するだけなんです。それに対して、CG241Wはモニタの内部回路そのものを直接調整するハードウェアキャリブレーションなんです。

それもギターでたとえられますか？

魚住 うーん、これまでのキャリブレーションは、ギターの音をマイクで拾って、その拾った音を調整してお客さんに聞かせていた。ハードウェアキャリブレーションは、ギターの音そのものを調整している、そんな感じ。ウオズミワールドではそんなふうに理解しています。

なるほど(笑)。ギターのたとえのおかげで、現像やレタッチの前にモニタとキャリブレーションが重要なのがよく分かりました。

EIZO ColorEdge CG241W



左/ColorEdge CG241Wはタテ位置A4画像を2枚並べて表示できるので、レタッチ前、レタッチ後の比較も確実に行える。「Adobe RGB表示で色が追いつめるので最高ですね」とウオズミ。

下/測色器「i1」でキャリブレーション中のウオズミ。付属のキャリブレーションソフトウェアに目標値を設定すれば、あとは待っているだけで正確なハードウェアキャリブレーションが行われる。



Adobe RGB色域96%カバー

ナオの最新液晶モニタColorEdge CG241Wは、ColorEdge CE240Wの後継機という位置付けだが、性能的には全く別物と考えていいだろう。このモニタの大きな特徴は、なんと言ってもAdobe RGB比96%を実現していることだ。デジタルカメラには、色空間としてAdobe RGBの設定はあるものの、この色空間を表示できるモニタはとも高価で簡単に買えるものではなく、従来のsRGB表示のモニタでは対応できなかった。しかし、CG241WではAdobe RGBデータの広い色域と階調をモニタで表示できるため、今まで以上にクオリティの高い作品を作り出すことができる。Adobe RGBの色域を100%表示できる訳ではないが、撮影から出力(プリント)までの色管理ができるようになった恩恵は絶大である。

さらに、大型液晶パネルで問題となる輝度や色ムラの対策として、デジタルユニフォミティ補正回路を搭載しているため、全階調において均一な表示画面を実現している。

遮光フード標準装備

画面サイズは24.1型のワイドで、A3判の原稿を実寸表示してもさらに余裕があり、この広い画面を体験してしまうと手放せなくなること間違いなし。さらに、昇降機能に加えてチルト、スウィーベル機能もあり、モニタの見る位置を細かく調整することができる。また、遮光フードが標準装備されているのもユーザーにとって嬉しいことである。作りもしっかりしており、内面には反射を抑えるためのフェルトが貼ってある。この遮光フードはCG241W専用だ。

さて、このモニタにはキャリブレーション用のセンサーがセットになったものと、センサーなしの単体販売の二種類があり、センサーを所有しているユーザーなら単体で購入すればよい。ただし、使用できるセンサーが限定されているので確認して欲しい。

ハードウェアキャリブレーション対応

モニタを使いこなすにはキャリブレーションを行うのは今や常識だ。最高の結果を得たいなら、最高のチューニングをするのはあたりまえ。音楽と一緒に！ これまでは、ビデオカードの出力信号を補正して調整する「ソフトウェアキャリブレーション」を行ってきたが、どうしても色や階調を犠牲にしなければならないという問題があった。このモニタでは、ビデオカードからの出力信号を独自に開発したASICにより最適化する「ハードウェアキャリブレーション」が、より正確で滑らかな階調表現を実現する。作業はとても簡単でセンサーをセットして、キャリブレーションソフトウェアに目標値を入力すればあとは自動的に調整してくれる。

このモニタは、どちらかと言えばプロユース向けのモデルになるが、今や家庭用プリンタでもAdobe RGBの出力が可能になっており、アマチュアにもぜひ使って欲しいモニタである。少々高価であるが、買って得をしたと思えるモニタである。

EIZO ColorEdge CG241W 主要諸元

サイズ：61cm(24.1)型(可視域対角61.1cm) 推奨解像度：1920×1200 最大表示色：約1677万色 視野角：水平178°/垂直178° 最大輝度/コントラスト比：300cd/m²(typ.)/850:1(typ.) 応答速度：16ms(黒→白) 6ms(中間階調応答速度) 入力端子：DVI-I 29ピン×2 スタンド機構：昇降(82mm)、チルト(上40°)、スウィーベル(右35°、左35°) 外観寸法(幅×高さ×奥行)：スタンド含む(566×456~538×230mm) モニタ部のみ(566×367×85mm) 質量：スタンド含む(約11kg) モニタ部のみ(約7.4kg) 価格：オープン(EIZO直販Webサイト価格：18万8790円[本体+遮光フード]、20万9790円[本体+遮光フード+センサー])